

R6	実施圏域	実施数	評価指標	状況(評価結果)
ハイリスク アプローチ	4圏域	実4件 (延7件)	医療受診につな がった人数と割 合	糖尿病治療につながった者(率)4人/7人(%)
ポピュレーション アプローチ		17回/ 延440人	①フレイル・生活 習慣改善への取 組 ②フレイル予防・ 重症化予防	<p>①関与した通いの場:16か所 健康状態把握(延人数) 272人 健康教育(延人数) 249人 健康相談(延人数) 128人</p> <p>②質問票による評価(2年間質問票回答のある者のうち)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主観的健康観(よい・まあよい)R5年33.3%⇒R6年34.5% 改善 ・日常生活満足度(満足・よい満足)R5年87.9%⇒R6年85.8% 悪化 ・幸福感(0~10点の平均値)R5年7.56⇒R6年7.55 悪化 ・運動機能該当者の割合 R5年21.2%⇒R6年49.1% 悪化 ・1年間に転んだことがある割合 R5年18.7%⇒R6年23.7% 悪化 ・お茶や汁物等でむせることがある割合R5年32.9%⇒R6年32.5% 改善 ・半年前に比べて固いものが食べられなくなったR5年36.6%⇒R6年37%悪化 ・以前に比べて歩く速度が遅くなったR5年52.9%⇒R6年62.9% 悪化 ・ウォーキング等の運動を週1回以上しているR5年64.5%⇒R6年66.6% 改善 <p>運動機能該当者の割合については、15分以上続けて歩くの項目を「いいえ」と返答する方がR5年とR6年と比較し2倍程度増えている。今後もフレイル予防に継続に取り組んでいく必要がある。</p>

成果:

- ・糖尿病中断者への介入により、医療と介護、生活の視点で地域包括支援センターやランチと連携して健康管理支援が行え、顔の見える関係になり、その他の健康づくり支援(国保対象者等)への連携もしやすくなった。
- ・ランチ医療職の介入により、サロンやサークルのリーダーの方から気になる方の相談を受けることが増えた。
- ・一体化事業に取り組むことで、地域の健診・検診状況と結果の把握ができ、地域として取り組む課題を理解することができた。
- ・サロンやサークルに出向くことで、地域の状況や活動状況を把握することができた。

今後の課題

○ハイリスクアプローチについて

・健康課の医療職において健康づくりの視点はあるが、生活やフレイルの視点、地域の社会資源を知って、一体的に高齢者への健康づくり支援ができるように地区担当職員が一体的実施事業に参加できるような体制づくりが必要である。

○ポピュレーションアプローチについて

- ・通いの場には様々な課題を抱えた高齢者が多数存在するため、ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチとの連動が必要不可欠である。70歳以上の要支援・要介護認定を有していない高齢者に発送している「介護予防基本チェックリスト」を活用し、高齢者自身が老化のサインを早めに気づき、通いの場においては、ブランチ医療職による介入を継続的に行っていくことが必要である。
- ・自宅で出来る運動メニュー（セルフケアプログラム）を通いの場で提案し自宅での運動機会の確保の普及を図りつつ、通いの場へは継続的に訪問しながら高齢者との顔なじみの関係性を構築していく必要性がある。（健康面においても困ったときに相談が出来る体制づくりの構築）
- ・重症化予防のため、かかりつけ医をもち定期的な受診、内服管理についての必要性についての情報提供を行っていく必要性がある。
- ・閉じこもりによるうつ予防対策のため、こころの関する健康教育も実施していく必要がある。

○事業全体

- ・生涯にわたる住民の健康づくりの推進のために担当者が変わる中で、一体的実施における各部署との課題の共有化、役割の明確化が必要である。
- ・更なる事業推進には上層部及び関係各位の理解と協力が必要である。
- ・経年的に一体的事業を実施してきたことで、住民をもとに地域での既存事業や支援者同志が顔の見える関係につながっている。今後更に圏域が増えることで、より高齢者の望む暮らしへの支援につながるとよい。